

漢字に相当する英語の接辞

AFFIXES AND CORRESPONDING KANJI

ワーシー・ジェイコブ
JACOB WERSCHEY

12.01.2014

Abstract

接辞は漢字のように、単語を見ると意味がなんとなく分かる。日本語を勉強している学習者には漢字に相当する接辞を覚えれば、単語力が増えるだろう。そして、その漢字と接辞の関係を明らかにしたいと思う。

この研究では、さまざまな漢字の接辞を集めて比べ、それらの表現の意味と用法について分析することを目的としている。接辞として用いられる漢字に相当する英単語を集め、その中で使用頻度の高い接辞を研究対象とする。

しかし、一つの学習言語である言葉の意味によって、自分の母語ではいくつかの言葉に相当するように、一つの接辞はいくつの漢字に相当する場合がある。そのため、なぜその接辞はいくつの相当するのか、相当する漢字の相違点やニュアンスを分析する。

1. はじめに

この研究では、さまざまな漢字の接辞を集めて比べ、それらの表現の意味と用法について分析することを目的としている。接辞として用いられる漢字に相当する英単語を集め、その中で使用頻度の高い接辞を研究対象とする。なぜ漢字接辞の使い分けをしているのかを分析し、漢字とその接辞が用いられる際の互いの関係がわかりやすいように、ダイアグラムを作る。

2. 研究動機

日本語の学習者にとって、最初に漢字は大変だが、勉強すればするほど漢字を覚えるのが大事になる。漢字はどんどん役に立って、便利になる。漢字のおかげで、単語を見ると意味がなんとなく分かる。その点で、漢字と接辞は凄く似ていると思う。

多くの英単語はラテン語とギリシア語に基づいている。それで、ラテン・ギリシア語の接辞も多くある。例えば、*bronchitis*、*hepatitis*、と *gingivitis* は全部 *-itis* で終わる。なぜかというと、*-itis* は「炎症」という意味を表すためである。接辞は漢字のように、見れば意味が分かる。もし接辞に相当する漢字があったら、それも役に立つだろう。

実はいくつもある。先の *bronchitis*、*hepatitis* と *gingivitis* を訳したら、それぞれ「気管支炎」「肝炎」と「歯肉炎」になる。何々炎という言葉はよく何々 *itis* という。「*-itis*=炎」と覚えたら、いくつの単語を簡単に覚えられる。

しかし、一つの単語は様々な意味を表すことがあるため、学習言語である言葉の意味によって、それと同じような意味を表す言葉がいくつもある。例えば、英語の Free は4つの意味がある。自由という意味と関連して、無料、暇、空席はすべて Free で表せる。この三つの言葉が全部自由という概念があると考えられるだろう。無料で自由に取れる。すべきことがないので自由である。誰もいないので誰でも自由に座ってよい。

一つの言葉が複数の意味を有するという問題は接辞と関係していると考えられる。一つの言葉が様々な意味を表すように、一つの接辞を翻訳すれば、それに相当する様々な漢字になる可能性がある。反対に一つの漢字はそれに相当する様々な接辞になる可能性もある。自由、無料、暇と空席が Free という概念で繋がれているように、同じ接辞から派生する種々の漢字は一つの概念で繋がれているだろう。

熟語の仕組みがよく分かるように更に研究を深めたいと思う。日本語を読んだ、または聞いた時、単語の意味が分かっても、すぐ英語に訳するのが難しい場合もある。本研究での提案を参考にすれば、漢字を見て、それに対応する英語の接辞を速く思い出せるし、語幹の意味と合わせれば、英単語も速く思い出せるだろう。そして見たことがない熟語でも、だいたい分かるようになる。無数の語彙より、語彙の仕組みが分かる方法を覚えたほうが大事であると思う。英語の接辞のように、使い分けとニュアンスを覚えれば、「未」や「不」のような漢字接辞と熟語をもっと上手に使い分けることができるようになると思う。

表 1		漢字接辞関係			
漢字	接辞	例	英語	意味	
抗-	医学的言葉 → anti-	抗菌	Anti-bacterial	ばい菌を抑制する	
反-	反対する → anti-	反戦	Anti-war	戦争に反対する	
反-	反対する → anti-	反戦	Anti-war	戦争に反対する	
反-	決まり表現 → counter-	反撃	Counter-attack	攻められると攻める	
反-	やり返す → re-	反動	Recoil	押して、押される	
反-	やり返す → re-	反動	Recoil	押して、押される	
返-	返してくれる → re-	返金	Repay	お金を借りて、返す	
復-	繰り返す → re-	復習	Review	繰り返し勉強する	
再-	再びする → re-	再選	Re-election	再び選挙する	
改-	改めてする → re-	改選	Re-election	改めて選挙する	
-化	変化 → -ization	強化	Strengthening / Fortification	強くする	
加-	追加 → -ing	加速	Acceleration	スピードを加える	
	変化 追加	加熱	Heating	熱を加える	
-性	性質・属性 → -cy/-ity	個性	Individuality	個人の属性	
-度	属性の度合い → -ity	濃度	Density	濃さの度合い	
主義	アイデア → -ism	資本主義	Capitalism	資本に基づく制度	
論	論議 → -ism	無神論	Atheism	神が存在ない立場	
教	宗教 → -ism	多神教	Monotheism	神様が多い宗教	
防-	~~を防ぐ → -proof	防水	Water-proof	水を防ぐ	
耐-	~~を耐える → -proof	耐火	Fire-proof	火を耐える	
前-	過去・前 → -proof	前例	Precedent	前の例	
先-	過去か未来 → pre-/fore-	先決	Predetermination	先に決める	
予-	未来 → pre-/fore-	予報	Prediction / Forecast	予め情報	
失-	~~なくなった → dis-	失望	Disappoint(ed)	希望を失う	
未-	まだ~~いない → dis-	失礼	Inpolite / Disrespectful	礼儀に欠ける	
未-	まだ~~いない → dis-	未完成	Incomplete / Unfinished	まだ完全していない	
不-	~~の反対 → in/un-	不安	Uneasiness / Insecurity	安心でない	
非-	~~じゃない → in/un-	非公式	Unofficial / Informal	公式でない	
無-	~~がない → -less	無限	Unlimited	限度がない	
無-	~~がない → -less	無臭	Odorless	臭いがない	
-入	入る・入れる → in-/en-	収入	Income	手に入れるお金	
侵-	侵す → in-/en-	侵害	Infringement	権利を侵し損なう	

3. 漢字接辞の関係

3.1 日英の接辞の意味

2 ページの「表 1 漢字接辞の関係」というダイアグラムでは、矢印はある漢字とある接辞の関係を表している。矢印はある漢字が英単語に相当する場合、ある接辞になるということである。接辞はそれに相当する意味の漢字がいくつもある場合もある。例えば、「抗」は Anti という意味に相当するが、Anti は「抗」に相当するか「反」に相当するか、語幹の英単語の意味かニュアンスで決まる。

4.1 研究内容

4.1 「Anti-・反・Re-」グループ

4.1.1 Anti グループ — 「抗・反」

英語で Anti- という接頭辞が付いている言葉は大概にして「何かに反対する」という意味を表す。しかし、このグループには「抗」と「反」が含まれている。

「反」に比べると「抗」が用いられる言葉は具体的だ。というのも「抗」はよく医学用語に用いられる。例えば、抗癌剤や抗炎症薬のように「抗」と「剤」、「薬」はよく組み合わせられる。だが、「抗」は医学分野の言葉に限らない。

表 2 「抗」で始まる言葉

医学言葉	例外
<small>Antibacterial Antibody Antigen</small> 抗 菌 ・ 抗 体 ・ 抗 原	<small>Resistance Objection</small> 抗 戦 ・ 抗 議
<small>Antibiotics Antidepressant Antiinflammatory Anti-ageing</small> 抗 生 物 質 ・ 抗 う つ 薬 ・ 抗 炎 症 薬 ・ 抗 老 化	<small>Resistance Protest</small> 抗 争 ・ 抗 告

「反」は「抗」より抽象的だ。それで、国の代表の漢字（カナダの「加」、アメリカの「米」等）は「抗」より「反」と一緒に用いられているようだ。Anti-グループの「反」はもっと抽象的だが、Re-グループの「反」は抽象的な意味に限らない。

4.1.2 反グループ — 「ANTI・COUNTER・RE」

「反」の意味に相当する Anti と Anti の意味に相当する「反」は意味上共通点を持っているため、用法は同じである。

Counter-は接辞として「反応として何かやる・起こる」という意味を表す。

表1で分けているが、このグループでは Counter が RE の意味に含まれている。

後述のように、「Re-」が付いている英単語は大体「何かを2回以上やる・起こる」のような意味を表す。なぜ Counter がその意味に含まれているかという、反応として何かをやるならば、まずそれに先立った何かが起こらなければならないからであり、時系列的に、1回目の事象の後にその反応として2回目の事象が続くからである。

要するに、攻められなければ、反撃できない。または証しを出されなければ反証も出されない。Re の本来の意味の広さで Counter の「反応として何かやる・起こる」という意味を表せるだろう。つまり、反グループの Counter と Re の意味は全く同じだ。「反」で始まる言葉は Counter-になるか Re-になるか、語幹で決まっている。Counter で始まる言葉の語幹は必ず英語の単語になっている。Re で始まる言葉の語幹は必ずしも英単語だとは限らない。

表3 「反」で始まる言葉

Anti に相当する言葉				国名に付く言葉				
Antimilitary	Anti-Nuclear	Anti-Communism	Anti-War	Anti-Japanese	Anti-American	Anti-Chinese	Anti-British	
反軍・反核・反共・反戦				反日・反米・反中・反英				
Counter に相当する言葉							例外	
Counter-attack	Counter-offensive	Counter-example	Countercurrent	Counter-intelligence	Counter-evidence		Counter-measure	
反撃・反攻・反例・反流・反間・反証*							対策	
Re に相当する言葉							例外	
Reverberate	Reflection	Reflex	Reaction	Rebound	Recoil	Rebellion	Refutation	Resistance
反響・反省・反射・反応・反発・反動・反逆・反証*・反対							反対*	

語幹によって、「反」で始まる言葉は Counter- と Re- の共通している言葉がある。しかし、言葉によっては、ある品詞として用いられないことがあるかもしれない。例えば、上の反証は「Counter-Evidence と Refutation」になることがある。だが、Counter-Evidence は必ず名詞である。Refutation は Refute という動詞で動作を表すことができる。または、文脈によっては他の英単語が用いられる。

4.1.3 Re グループ 「反・返・復・再・改」





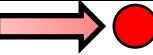













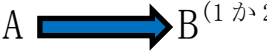
前述の通り、「Re-」が付いている英単語はたいてい「何か2回以上やる・起こる」のような意味を表す傾向がある。Re- は「反・返・復・再・改」になることがあるが、「反」は他のグループにも入っているので「復・再・改」に比べると違う分類になる。「反」の場合、反応として何かやる・起こる。する、とされる。反グループの Re と同じだ。「返」では「反」が入っているので意味的にも発音的にも似ている。「復・再・改」に比べると「反・返」は対象となる二者間の関係性が強い。前述の通り、反は「反応として何かやる・起こる」という意味を表す。だが、「返」は何かやってやられることじゃなくて、何かを借りて返すという意味を表す。「反」のほうが、やり返すという意味で、「返」はやり取りである。





「復・再・改」はすべて繰り返すという意味だ。「復」の場合、何かを回復する。「再」の場合、再びやる。ほかの Re に相当する漢字の中で Re の意味の一番近い。なぜかと言うと「再」は Re のように、「何か2回以上やる・起こる」だけ

を表している。変化するかしないか無関係だ。「改」の場合、もう一回やるが、2回目に相違点がある。改めて何かする。

次のダイアグラムは一つずつ、ある漢字の時系列な関係を示す。なぜ示すかという英語で RE という接辞の使い分けの範囲が広いからだ。Re は「何を2回以上する」という意味を表すのかは詳しくない。動作#1と動作#2の関係は Re で表していない。だが、日本語では漢字である関係を表す。ある漢字のニュアンスに注意しなければならない。例えば「再選」と「改選」は両方、Re-election だ。それで Re-election を言う場合はどちらを意味するのかが迷うだろう。

表 4 RE グループのダイアグラム

漢字	動作#1	動作#2	動作1と2まとめ
反	A  B	A  B	A  B
Reverberate 反響	AはBに何かする	BはAに反応する	AからB、BからA(反対)
	Aさんは洞窟 ^B で叫ぶ	洞窟 ^B が音をはね返す	Aさんの声が反響される
Recoil 反動	弾丸 ^B は銃 ^A で発射される	銃 ^A は後ろへ動かされる	銃 ^A は反動する
	A   B 	A   B 	A   B 
Reply 返事	AはBに何かする	AはBに何かしてもらう	AからB、BからA(互い)
	AはBにメッセージを送る	AはBにメッセージする	BがAに返事する
	Repay 返済	AはBにお金を貸す	BはAに払い戻す
復	A  B 	A  B	A  B 
Review 復習	状態を果たし、なくなる	状態をもう一回果たす	ある状態を回復する
	何かを習ったが、忘れる	もう一回習う	何か復習する
Reinstate 復職	仕事ができしたが、辞職する	あの仕事に戻る	復職する
	再	A  B ⁽¹⁾	A  B ^(1か2)
	何かやる	もう一回やる	二回やる

Remarry 再婚	太郎は結婚する	太郎はもう一回結婚する	太郎は再婚する
Replay 再生	AからBへ動画を流す	動画をもう一回流す	動画は再生される
改	A  B	B  C	A  B  C
Revise 改定	何かやる	やり直す	改めてやる
Rebury 改葬	ルールを作る	問題点を直す	ルールが改定される
	遺体を葬る	改めて葬る	遺体が改葬される

4.2 「-(iz)ation・-ing」グループ

英語で-(iza)ation が付いている言葉は「何かになる・する」のような表現に相当する。(Vance, 76)だが、よく考えると「何かを加える・が加わる」という意味もあり、「何か加わる」ことによって、変化が見られる。日本語でこのような違いは漢字で表す。英語の場合、-ization になるか、-ification になるか、語幹で決まる。

「-化」は「何かに変化する」という意味を表す。たいてい「-加-」より、「-化」の方は(-iz/-ific)ation という接尾辞の意味に近い。-ing になることもある。また、(iz)ation か-ing、両方になることがある。だが、その場合は-ing の直前に「en」があることが多い。

表5 化で終わる言葉

(iz・ific)ation			-ing				
Beautification	Mechanization	Westernization	Deterioration	Aggravation	Intensification	Warming	Ageing
美化	機械化	洋式化	劣化	悪化	激化	温暖化	老化
-(iz)ation・-ing							
軟	Softening	強	Strengthening	硬	Hardening	濃	Thickening
化	Mollification	化	Fortification	化	Vulcanization	化	Concentration

「-加-」は語幹の位置に関わらず、「何かを加える・が加わる」という意味を表す。「加」は-ation と-ing になることがあるなぜ-ing になるか ation になるか

は一種の決まり表現だと考えられるからである。「加」で終わる言葉は多くの場合、Addition に相当する。

表 6 加で始まる言葉

「加」で始まる Ing か ation に相当する言葉										
Adding	Scoring	Heating	Weighing	Processing	Flavoring	Pressurization	Acceleration	Humidification		
加算・加點・加熱・加重・加工・加味						加圧・加速・加湿				
「加」で終わる・相当する言葉										
		Participation				Addition	Addition	Addition	Addition	
		参加				倍加	添加	付加	追加	

英語の-ation や-ing が付いている言葉は「-化」と「-加-」になることが多いのに、ならないことも多くある。なぜかと言うと、変化や追加に関わらず、-ation と-ing で終わっている動名詞が多くあるからである。

そこで、翻訳・通訳する際にその英単語が変化または追加を表すかどうかについては、よく考えなければならない。例えば、^{R U N N I N G} 走ることと ^{E X P L O R A T I O N} 探検は-ing と-ation が付いているのに、日本語では「加」と「化」に相当しない。

表 7 例外

-ing	-ation
^{R u n n i n g} 走ること・ ^{S w i m m i n g} 泳ぐこと・ ^{C l i m b i n g} 登ること	^{E x p l o r a t i o n} 探検・ ^{S a l u t a t i o n} 挨拶・ ^{D e t e r m i n a t i o n} やる気・ ^{C o m m u n i c a t i o n} 通信

ただし、「化」は文法的な問題と関係していると考えられる。「化」は「何かになる・する」という意味で「化」は名詞とナ形容詞に付く。イ形容詞のほうは、ある形容詞の漢字の後ろに「化」がつく。

4.3 「-ity・-icy」グループ

英語の「-ity・-icy」は「何かの性質・属性」か「何かの度合い」を表す。文で意味が分かりやすいただろうが、英単語を見るだけではよく区別が付かない。-

tude・ness になることもかなり多い。だが意味は変わらない。「-性」は「何か

の性質・属性」を表す。「-度」は同様に「ある性質・属性の度合い」を表す。

(Vance 51)

同じ「-ity・icy」で終わる英単語は文脈によって、両方「-性」と「-度」になることがある。「何々-ity・icy」になる「度」と「性」が入っている2字熟語があるが、ならない言葉もかなり多い。それで、3字以上の熟語の方が「何々-ity・icy」に相当すると思える。反グループのように「-性」と「-度」は語幹によって-ityか-icyになる。

表9 性・度で終わる言葉

性	度
<small>Individuality Solubility Compatibility Neutrality</small> 個性・可溶性・互換性・中性	<small>Density Frequency Purity</small> 濃度・頻度・純度
<small>Possibility Toxicity Flexibility Elasticity</small> 可能性・毒性・軟性・弾性	<small>Volocity Intensity Accuracy</small> 速度・強度・精度
例外	例外
<small>Asexual Aptitude Character Resistance</small> 無性・適性・品性・耐性	<small>Angle System Severe Moderation</small> 角度・制度・重度・節度
共通語幹	
<small>Sensitivity Acidity Viscosity Transparency</small> (感性・感度) (酸性・酸度) (粘性・粘度) (透明性・透明度)	

4.4 -ism グループ「主義・論・教」

英語の「-ism」は「教え・考え」という意味を表し、「主義・論・教」に相当する。「主義」か「論」で終わる言葉には、「者」を後ろに付けると「ism」が「-ist」になる。二字目の漢字が「論」になっている二字熟語、例えば、理論、結論、世論、討論、議論などは「-ism」にならない。なぜかという「論」は「主義」とともに2字熟語の後ろにつき、3字以上の熟語になるからである。本研究における接辞に相当する漢字では「主義」が唯一の二字熟語である。

「主義」で終わる4字熟語は「-ism」にほとんど相当するため、「-ism」で終わる言葉は「主義・論・教」に相当する場合はかなり多くあるが、その反対に、「論・教」は「-ism」に相当する場合が少ない。例えば、「資本主義」と「資本論」は語幹が共通しているのに、「資本主義」はCapitalismに相当し、「資本論」はカール・マルクスのDas Kapitalという著作である。

「ism」に相当する「教」で終わる言葉は「儒教」以外、宗教のことに限る。だが、「教」で終わる言葉は必ずしも宗教の名前や信仰を表すとは限らないので「-ism」で終わる言葉に相当しない場合もかなり多くある。例えば、説教、政教、布教などは宗教に関していながら、教えではない。

「ism」に相当する「教」で終わる言葉は、宗教の名前と信仰に対してどんな宗教であるかを表す。例えば、「仏教」は宗教の名前であり、「一神教」は宗教の神様がひとつしか存在しないという信仰の宗教である。

だが、宗教のことにしても、「論」を用いる言葉もある。なぜかというと、宗教のことにして何か論議しているからである。例えば、「無神論」というのは神様がいないという論議である。その一方、宗教では、神様が複数存在するというのはその宗教の教えであるので「無神論」ではなく、「多神教」という。

表 10 -ism に相当する言葉

制度・考え方						
Capitalism	Collectiveism	Communism	Feudalism	idealism	Imperialism	Militarism
資本主義	集団主義	共産主義	封建主義	理想主義	帝国主義	軍国主義
論じる						
agnostic	atheism	deism	determinism	dualism	Environmentalism	Fatalism
不可知論	無神論	理神論	決定論	二元論	環境保護論者	宿命論
宗教・教え						
Judaism	Buddism	Confucianism	Hinduism	Monotheism	Polytheism	
ユダヤ教	仏教	儒教	ヒンドゥ教	一神教	多神教	

4.5 Pre/pro/fore グループ「予・先・前」

Pre/pro/fore- は「何かの前」という意味を表し「前・先・予」に相当する。

「先・前・予」で始まる言葉は Pre/pro/fore-に相当し、時間に関する言葉が多い。

「先・予」と異なり、「前」は具体的な言葉でも用い、「前」は語幹の位置に関わらず、前に付く場合も、後ろに付く場合もある。

表 11 前にある相当する言葉

過去（一字目）								
precedent	Prerequisite	Aforementioned	pre-war	prenuptial	the Former	Prehistory	Prelude	P r e f a c e
前例	前提	前述	戦前	婚前	前者	前史	前奏	前置・前文
過去（二字目）					具体的			
Foremost	Pre-war	Unprecedented	Prior	Preoperative	Premarital	Fore-arm	Forehead	prostate
最前	戦前	空前	事前	術前	婚前	前腕	前頭部	前立腺

「前」と「先」は両方過去のことにに関する漢字である。したがって、「前」と「先」は同じ語幹の漢字につくことがある。しかし、そのような共通語幹がある言葉では、使用頻度以外、何が違うのかは不明である。例えば、「先例」と「前例」が両方「precedent」という意味に相当しながら、「先例」があまり使われていないようである。なぜ「先」で始まる言葉が使われているか、「前」で始まる言葉が使われているかは、時間的な問題にあるのではないかと本研究は主張する。

表 12 時系列



Pre/pro/fore-に相当する言葉ではないのだが、「先日」と「前日」を比べると、

「前日」は前の日を表し、「先日」は数日前のことを表す。それで、「先」のほうが現在時点から離れていると考えられるだろう。そのような観点から、「前」

を使うか、「先」を使うのかは決まっているように思える。

「先」は「先の」という意味も「先に」という意味も表すので「先」で始まる熟語は「前」のように、過去のことを表す場合があり、「予」のように未来のことを表す場合もある。例えば「先人」は過去の人であり、「先決」は先に決めておくということである。また、ある言葉は「先に」と「先の」両方を表せることがあるようである。「先行」は「先に行く・行う」という定義だが、「先行研究」は必ず「前に行われた研究」である。

Pre/pro/fore- は「何かの前」という意味を表すが「予」は必ず未来のことである。なぜかという「予め」というのは「未来の前」のことだと考えられるからである。では、「先」が未来のことも表せるのであれば、「予」と「先」は何か相違点があるのだろうか。「予」は確かに「先」と同じように「前もって何かやる」という意味だが、「予」では、そのやることではなく、そのやることの準備をするということを指示しているのである。例えば、「予習」というのは、授業の前に準備として自分で習うのである。「予」の場合、そのやることがまだ完了していないと考えられるだろう。

表 13 Pre/pro/fore に相当する言葉

先の	先に
predecessor prior preconception 先人・先行・先入観	predetermine foresight pre-empt forerunner 先決・先見・先制・先駆・先発
あらかじめ	
premonition forecast preview precaution preliminary foreknowledge preparation for preheat prognosis 予感・予報・予告・予防・予選・予見・予習・予備・予熱・予後	

4.6 -proof グループ「防・耐」

Proof という英単語は「証し」という意味なのだが、他の英単語に付けると、

「何かを防ぐ」という意味を持つ。それで、接辞として使われている意味は proof の本来の意味と無関係だろう。-proof といえば、何も入れず、100%何かから守るというふうに響く。日本語では「防」は-proof に一番近い。

「耐-」はもっと resistant という意味に近いが、英語では proof が resistant より使われていると思える。多くの場合、「防」で始まる言葉があれば「耐」で始まる言葉もある。両方の言葉は普通は英語の「-proof」と訳されることができる。「-proof」を翻訳しようとする学習者は何かが耐えられるか、何かが防がれるかよく注意しないとイケない。

表 14 「防・耐」言葉比較

	Bulletproof	Earthquake-proof	Fireproof	Soundproof	Waterproof
防	防弾	—	防火	防音	防水
耐	—	耐震	耐火	—	耐水

一つ例を挙げると英語で「Earthquake-proof」という言葉がある。だが、「防震」という言葉はない。地震を防ぐのは不可能だからである。「-proof」と言っても、「Earthquake-proof」の家屋は地震の災害にある程度耐えることしかできない。同じように **sound-proof** と **noise/sound-resistant** は英語で両方あるのに、日本語では「耐音」という言葉が存在せず、「防音」という言葉しかない。**Resistant** といっても、音を耐えるという意味ではない。なぜかという、その **sound-resistant** の物は、音を吸収し、実質的に音を防ぐという性質を持つからである。

4.7 否定グループ

英語の「in・un」が付いている言葉は否定の意味を表す。だが、何の否定なのかについては、文脈がないと、またはよく考えないと、意味は漢字で正しく表せない。なぜかと言うと、英語で表わさない意味は日本語の漢字で表していることもあるからである。「～じゃない/しない」だけでなく、「まだ何かしていない」、「何か無い」などにも否定の意味が含まれているのだろう。英単語はこういうニュアンスによって、「失・未・不・非・無」で始まる言葉に相当する。

表 15 否定言葉比較

	失	未	不	非	無
	なくなった	まだ～ない	反対意味	(じゃ・し)ない	がない
Marriage 結婚	—	Unmarried 未婚	—	Unmarried 非婚	—
Complete 完	—	Incomplete 未完成	Incomplete 不完全	—	—
Occupation 職業	Unemployed 失職	—	—	—	Unemployed 無職
Human 人	—	—	—	Inhumane 非人情	Unmanned 無人
Proper 妥当	Unreasonable 失当	—	Improper 不当	—	—

翻訳・通訳にかけては in・un で始まる言葉をよく考えると、ただ否定の意味ではなく、他のニュアンスを表すが、In になるか、Un になるのかは言葉の意味と関係なく、英単語の語幹によって決まっている。否定グループの漢字では、Dis という接辞になることが少なくない。Non か A(b) [Asexual, Abnormal など] になることもかなり多い。in・un と同じく語幹によって A(b)・Dis になる。

「失」は「～がなくなった」という意味を表す。「失」は他の否定グループの漢字に比べると、Dis になる場合がかなり多くある。

「未」は「まだ～していない」という意味を表す。in より un になることが多い。

「不」は「～じゃない/しない」の意味を表す。何かが否定される。「不」はプラスな言葉によく前につくので「不」はよくマイナスというイメージある。

(Vance, 18)「非」と「不」は同じ意味だが、「非」は大体名詞に付き、「的」が付いている形容詞と一緒に用いられている。または「不」に比べると「非」はマイナスの意味より、プラスかマイナスか両方も表さない傾向がある。(21)しかし、「非」が前に付く言葉にプラスのイメージがあれば、「非」が付くとマイナスに響く。例えば、「公式」はマイナスの意味もプラスの意味も持たないので「非公式」もどちらの意味も持たない。一方、「効率的」はプラスの意味を持つので「非効率的」はマイナスな意味となる。

表 16 否定的な言葉

失	
In-・Un-	Dis-
unemployed 失業・失礼・失恋・失禁	disqualified 失格・失敬・失望・失跡
未	
insufficient 未満・未解決・未定・未開・未知・未熟・未読	undecided uncivilized unknown immature unread
不	
Unclear 不明・不便・不健康・不潔・不妊・不運・不眠・不可欠・不可避	Inconvenient Unhealthy Unclean Infertile Unlucky Insomnia Indispensable Inevitable
非	
Inefficient 非効率的・非合法・非公式・非常・非核・非暴力的	illegal informal unusual non-nuclear non-violent
無	
In・Un-	-less
Ignorance 無知・無量・無関係・無効・無条件	Colorless Odorless Wireless Useless Harmless Heartless

「無」は「失・不・未・非」と同じく

「in/un」になる。だが、「無」は特に-lessになる言葉が多いのに意味は変わらない。両方「～なし」の意味を持っている。なぜ-lessになるか、un/inにな

るのかは、語幹と関係しているようである。もしくは、ただの決まり表現だろう。

「無」は他の特徴もあり、「有」と関係している。「有」に相当する接辞がないのだが、「有」で始まる言葉は該当の「無」で始まる言葉が多い。これは「有無」という関係である。「有」で始まる漢字は、英語で「無-」の語幹になることがあるが、語幹に関係のない別の言葉になることもある。「有」が始まる言葉で逆に、「無」が始まる「in-/un-・-less」の言葉も簡単に使えるようになると思う。

表 17 有無関係

語幹になる・似ている					語幹にならない・似ていない					
有	Organic 有機	Sexual 有性	Useful 有用	Toxic 有毒	Limited 有限	有	Guilty 有罪	Famous 有名	Influential 有力	Emergency 有事
無	Inorganic 無機	Asexual 無性	Useless 無用	Non toxic 無毒	Unlimited 無限	無	Innocent 無罪	Anonymous 無名	Powerless 無力	Unharmd 無事

5. おわりに

日本語漢字の接辞と英語の接辞は意外と共通点があると考えられる。この研究では、対象としなかった漢字と接辞はいくつもあるが、すべてを研究するのは時間的に余裕がなかったため、今回は「anti・反・Re」「-(iz)ation・-ing」「-icy・-ity」「ism」「Pre・Pro・Fore」「-proof」「In・En」と否定のグループを中心に分析した。その対象としなかった漢字接辞は、他の接辞と重なっているところ、または類似しているところがないため、今回の研究からはずしておく。一つの接辞は二つ、三つの漢字に相当する場合もある。たが、研究対象とした漢字接辞の中では、相当する漢字接辞だけでなく、もし、ある英単語は二つの漢字に相当する接辞があれば、どうなるのだろうかという仕組みの問題については今後研究していきたいと思う。

参照

Vance, Timothy J. *Building Word Power in Japanese: Using Kanji Prefixes and Suffixes*. First ed. Tokyo: Kodansha International, 2001. Print. Power Japanese.